

# 令和5年度普及活動アルバム

南信州農業農村支援センター

南信州農業農村支援センターでは、「第4期長野県食と農業農村振興計画」の初年度として、同計画の6つの重点戦略に基づいた普及活動を展開しました。特に地域で重要かつ緊急的に取り組むべき課題として、「改・新植に係る課題解決による日本なし産地の生産力向上」と「地域性を活かした魅力あるきゅうり経営の推進」の2課題を重点活動課題に位置付け、プロジェクト活動として取り組みを進めてきました。

各作目の生産振興や地域振興についても、一般活動課題として取り組み、多様な担い手の確保育成や生産力の向上、地域の活性化について様々な成果が上がっています。



## 【6月】【重点課題】日本なしの白紋羽病判定研修会

枝挿入法による日本なしの白紋羽病判定研修会を6月22日に南信農業試験場で実施し、生産者や技術者など19名が参加しました。また判定法と同時に、温水処理法やフルアジナム水和剤の土壌灌注による防除方法についても講習を行いました。生産者による白紋羽病対策の実施につながることを期待されます。



## 【6月】新規就農者激励会

南信州農業の新たな担い手として期待される新規就農者の激励会を6月21日に開催しました。新規就農した12名の出席者が自己紹介と併せて現状や課題、今後の展望について想いを語りました。

つづいて農業士やJA青年部等先輩農業者からの事例発表や、管内の4つの農業青年クラブから活動紹介があり、加入が呼びかけられました。



### 【7月】鳥獣害対策

ハクビシンをはじめとする中小動物の侵入防止に効果的とされている電気柵の設置講習会を平谷村で7月に開催したところ、平谷村民を中心に約20名の参加がありました。

電気柵設置によりスイートコーンの被害は大きく減少しましたが、一部で侵入の痕跡が見られたため、暗視カメラを設置し、侵入経路の特定を行いました。



### 【7・8月】【重点課題】

#### きゅうり青空教室

7月4日と8月24日に「きゅうり青空教室」を就農後数年が経過した生産者のほ場で開催しました。

延べ18名の新規栽培者が参加し、栽培管理や病害虫電子図鑑を活用した診断方法、そのほ場で使用している防除機の実演散布、管内で使用されている防除機の紹介等を通じて防除のかんどころを学びました。



### 【8月】森の収穫祭

下伊那西部地区（阿智村・根羽村・平谷村）の農産物の販売イベント「森の収穫祭」が下伊那郡西部3か村地域振興協議会の主催により、8月11～12日に阿智村にて開催されました。

3村の青年農業者13名が出品、販売を行いました。県外からの来場者も多く、農産物のPRや販売促進のため農業者自らが会場内を売り歩くなど、積極的な姿が見られました。



### 【8月】 クラインガルデン

5月3日、6月10日、8月5日に阿南町新野に20棟設置されているクラインガルデンの利用者や地域住民ら約30人を対象に野菜栽培講習会を開催しました。

地域住民との交流効果もあり、クラインガルデンの次年度利用予約は満室で、その9割はリピーターです。

同町の交流人口増加に重要な役割を果たしています。



### 【11月】

#### 南信州伝統野菜フェア

11月26日にJA農産物直売所「およりにてふあーむ」の収穫祭と併せて、「南信州伝統野菜フェア」を開催しました。

伝統野菜の現物やパンフレット、データベースなどの展示、「旬ちゃん」の着ぐるみによる、伝統野菜PRを行いました。300名以上の来場者があり、伝統野菜を多くの地元の方に知っていただく機会になりました。



### 【12月】 農村女性ネットワーク南部冬季研修会

地域食材の消費拡大を図るため、冬季研修会として「フライパンで作るガレット教室」を12月5日に開催しました。

身近にある食材を用いて、簡単に作れることから、参加した会員の評価は上々で、正月休みに家で作ってみたいといった声も聞かれました。また、研修会を通じて会員相互の交流も図られました。



### 【1月】【重点課題】

#### きゅうり情報交換会

本年度のきゅうりの作柄を振り返り、次年度へ向けた課題や目標を明確にすることを目的に、1月11日にJAと野菜花き試験場による「お出かけ試験場」と連携して開催しました。新規栽培者及び研修生21名の参加がありました。JAや試験場等関係機関からの情報提供と併せてグループワークにより工夫点や課題などの情報交換を行いました。



### 【2月】【重点課題】

#### 日本なし生産振興大会

日本なし産地の再構築に向けた取り組みを、生産者と関係機関が連携して推進するため、南信州日本なし産地再生プロジェクトの主催で2月16日に開催し160名が参加しました。

今後の振興方針、試験研究状況、優良事例、流通情勢等に関する発表について聴講いただきました。終了後、複数の参加者から早期多収省力技術導入の申し出がありました。



### 【通年】

#### 食品企業の農業参入に向けた基盤整備支援

農産加工製品の原材料となるりんごの自社生産を計画している食品企業の農業参入支援を通じて、同社の工場がある阿南町で課題となっている遊休農地対策や担い手確保を図るため、JA、町、農地整備課などと連携し、基盤整備事業などを活用したりんご高密度植栽培の導入に向けた活動に取り組んでいます。